



魚と毎日喋っている。愛しているんよ

伊根浦漁業監査役 ^{やぎ}八木 ^{かずひろ}一弘さん(74)

旧伊根漁協の組合長である。京都府内の漁業関係の要職を数多く務め、気さくな性格から「八木さん、八木さん」と慕われている。伊根浦漁業の会社事務所で話を聞いた。窓越しに伊根町のシンボルともいえる舟屋が見える。

早朝に水揚げされた魚の選別作業を自らも手伝う。「魚を目で見て、この手で触っていると気持ちが落ち着くんよ。毎日、魚と喋っているようなもんやから。魚を愛しているんやね」。このおおらかさが多くの人から好かれるのだろう。「もちろん 365 日、何らかのかたちで魚を食べている。魚は僕の食文化やから」

「健康法はね、歩くこと。多い時には一日に 15 km、少なくとも 10 kmは歩いている」。2年前から何気なく始めたが、根っからの凝り性で「これまで風邪で2日間休んだだけ」と話す。時には幅 50 cm、長さ 165

mの防波堤の上を、海に落ちないように速足で歩くという。「平衡感覚も養えるから」と言うが、くれぐれも気をつけてください。

全国漁業無線協会会長理事でもあり東京へ出張することも多い。「会議でしゃべる原稿は、人任せにせず自分で作る。そうしなければ人の心に響かへんやろ」。中央官庁の官僚ともよく話をする。「難しいカタカナ言葉がよく出るんや。トイレに行ってその言葉をメモしておき、伊根に帰ってから辞書で調べる。その言葉の意味が分かった時はうれしいよ」。これも八木流健康法と話す。

3人の孫がいる。一番上の4歳の男の子が小学生になった時に「キャッチボールを一緒にするのが夢なんや。それを生きがいに、これからも体力づくりに励みます」。

